

2023. 4. 3

Report from AKATSUKA PARK

発行：赤塚公園ニリンソウを守る会

- 植物モニタリング活動 月間中の「春の野草観察会」に切り替え（下記参照）
- ニリンソウ観察 Day 4/9（日）10：00～15：00 大門自生地
期間中の土・日 10：00～12：00 大門自生地でのニリンソウガイド
期間中の毎月曜日 9：00～12：00 春の野草観察会 ため池公園スタート
★どの活動も、飛び入り参加歓迎！ 雨天は小雨でも中止

<問合せ：赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

3/27=満開 4/3=ヤマブキソウと競演 動きの速いニリンソウ自生地

3/18 から始まったニリンソウ月間、スタート時点では雨で肌寒い日が多く、ニリンソウも1分咲き程度でしたが、その後は通常よりも速い展開で3/27には満開になったかと思うと、その数日後にはヤマブキソウが咲き始めました。



大門地区のニリンソウ自生地メインステージではニリンソウ（白）とヤマブキソウ（黄色）、それにジロボウエンゴサク（紫）の3種そろい咲き。例年、ジロボウエンゴサクはニリンソウ開花の前にしぼんでしまうのですが、これは珍しい光景です。

ニリンソウの群落は広がる。一方で「ニリンソウが少なくなっていて残念です」の声あり。真実はなにか？

ニリンソウ月間中の土・日曜日の午前中は大門広場のテントで見学にいらっしゃるみなさまへのご案内をしているのですが、「昔はたくさん咲いていたニリンソウなのに、最近は少なくなっていて残念です」と恨みがましく言葉を残していく方がいらっしゃいます。そう言われると、こちらから人の子、「そんなことはないですよ！」って反論してしまうのですが、「減った」とおっしゃる方は結構いらっしゃいます。そこで、考えてみました。

メインステージの擬木が後退してニリンソウ群落は遠くになった

2019年から始まった赤塚公園生物多様性保全事業の工事で、崖下の林縁と緩斜面の草原を増やすために擬木を後退させました。そのために、ニリンソウの大群落は人の目線からは遠くになってしまいました。でも、擬木近くには新しい群落が広がりつつあります（下の左）。しかし、ニリンソウと同じ時期に展葉・開花するヤエムグラやヤブニンジンも大繁殖（下の右）して、ニリンソウを隠しているところも出てきました。



新しい群落にはすぐに花が付かない！？

右下は大門広場で写真展示を行っている看板の下、来訪者がいちばん最初にお目にかかる「ウエルカム・ニリンソウ」です。ここに群落が出来てからまだ4年目ぐらいの若い株で、写真は8分咲きです。黄円のマーク部分は今年になって増えてきた部分ですが花がついていません。ニリンソウは種子が地面に落ちてから幼葉を出すまでに数年、さらに開花するまで数年と言われているので、たくさんの花をつけるまでにはまだ年月がかかるのかもしれませんが。



ヤマブキソウが進出してきた（前ページの写真）

メインステージの斜面は10年ほど前まではニリンソウが大半を覆っていたのですが、この数年は年々ヤマブキソウが増えてきて、ニリンソウは押されています。ヤマブキソウは東京都の準絶滅危惧種のなかでもニリンソウよりも危惧度が高いので、これは超貴重な保護対象種なのです。

園路の北側のロープ柵内にはニリンソウがたくさん展開、自然性が回復しつつあります。5年後、10年後には違った景色になっているはずですが。大門のこの林にはその他にも絶滅危惧種やここでしか観察できない野草がたくさんあって、それらをみんな大事に守っていくことが必要だと考えています。「野草の草原」管理には未知数のところが多く、たくさんの方のみなさまのご協力が必要です。